

デザイン能力を養う教育についての本プログラムの考え方

神戸大学地域環境工学プログラム JABEE 推進会議

平成 21 年 11 月 24 日

デザイン能力を養う教育項目として、講義と地域環境工学現地実習(以下現地実習と呼ぶ)、3年次後期からの研究室配属、そして卒業研究を配置し、以下のような体系でデザイン能力を養う教育を行っています。

まず、1～3年次の専門科目講義では、デザイン能力を養うための個々の素材(素養)を講義形式の授業で修得させています。

次に、3年次の夏休みに行われます現地実習では、講義で学んだ内容を実際の現場で確かめるとともに、問題点を見つけて自分で解決する能力や発表・討議する能力を養います。この現地実習は、自分のキャリアデザインについて考える良い機会であり、報告会の発表では生き活きとした表情が多くみられます。

現地実習の報告会終了後の3年次後期から、研究室配属を決めています。これは、研究室のゼミに参加するとともに、院生や4年生から文献調査や研究手法などを学ぶことにより、卒業研究の準備をすることを目的としています。

そして、4年次の卒業研究では、3年次後期の経験を通じて、卒論テーマを選択し、実施計画をたて、実際に実験、調査、解析等を実行し、ゼミ発表(一部の学生は学会論文発表)・討議や指導教員との議論から、実施計画の変更やその実行を繰り返しながら(フィードバックを繰り返しながら)、最終的に卒論を完成させていくことになっています。そして、新しい考え方、手法や理論を創りあげていく過程を学べるようにしております。

講義を通して養った素養を複合及び総合し、現地実習を準備段階と位置づけ、次に卒論を出発点として、次第にデザイン能力が発揮できるようになることを期待しています。

また、平成21年度より、「食農コープ教育を通じた実践人材の育成プログラム」採択に基づいて、新しい講義科目「キャリアデザイン論」が開講され、学生は、低学年から食や農、健康・生命の現場で活躍する講師から実体験に基づく話を聞き、志を高め、キャリアパスのデザインができるようになっています。